（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじっこらんど			
○保護者評価実施期間	令和　8年　1月　14日	～	令和　8年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22名	（回答者数）	22名
○従業者評価実施期間	令和　8年　1月　14日	～	令和　8年　1月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8年　2月　26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別対応を重視していること。	・個別の活動の時間があり、パーテーションで区切られた空間で集中して机上での活動をします。	・固定化しないように難易度の調整や内容の工夫をしていく。
2	・LINEを活用して連絡を手軽に取れる。	・次月の予定表や日々の活動の写真や動画を定期的に保護者に送信している。	・保護者向けのお知らせはPDFにして配信するなどペーパーレス化を図る。
3	・療育の質を高められるよう定期的にスタッフ内で研修を行っている。	・月に一回スタッフが資料を用意して日々の療育に役立つ情報を共有しあっている。 ・経験豊富なスタッフの知識や着眼点を共有して新しいスタッフも療育に安心して加われるようにしている。	・有資格のスタッフは更に専門性を高める機会にし、経験の浅いスタッフは新しい視点での知識の共有の場にしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設内を見ていただく機会が少ないこと。	・事業所送迎の為保護者に療育の様子を見ていただく機会が少ない。 ・面談等は別室で行っている。	・面談の機会にお子様が利用している場合には、療育室へご案内をし、デイでの様子を見ていただく。 ・line等を活用し、写真や動画で活動の様子をお伝えする。
2	・職員の人数について伝えきれていないこと。	・職員の移動や入れ替わりにより、契約時に伝える人数と相違する。	・契約時に在籍するスタッフ、資格の有無についてを伝える。 ・今後、ホームページにて在籍職員を紹介することを検討する。
3	・冬は外遊びの機会が少ないこと。	・送迎時間などの関係で冬の外遊びをする時間が取りにくい。	・天候を見ながら臨機応変に外遊びと中遊びを充実させる。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	にじっこらんど

公表日　2026年　2月　28日

利用児童数　22名　　回収数　22枚

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	4		1	・活動スペースを見学したことがない。 ・限りあるスペースを活用出来ていると思うが、身体を動かす際には広いほうが良い ・確保されていると思う。	・見学や面談にて来所された際に活動スペースを見学していただきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	1		8	・職員の人数を聞いたことがない。 ・職員の紹介プリントが配布されないため、職員のことを母子共に中々覚えられない。	・利用者の人数に合わせた配置を行っています。 ・職員の入職の場合には、送迎時にご挨拶させていただきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2		3	・活動スペースを見学したことがない。	・見学や面談にて来所された際に活動スペースを見学していただきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19			3	・活動スペースを見学したことがない。	・見学や面談にて来所された際に活動スペースを見学していただきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	2		1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	17	3		2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21			1	・面談にて保護者へのヒアリングが丁寧に思う。	・今後も保護者様と面談やlineにて発達状況の共有をしていきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1		1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	2		4		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	3	3	7		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	2	5	9		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18	4				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	5	3	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	4		1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	5	7	9		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1		2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21			1	・連絡が細めと感じる。	・今後も定期的な情報共有にて保護者様との連携を図っていく所存です。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	3	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21		1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13		1	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	1	11		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	14	2		6		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1		3		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	21			1	・先生が親身になってくれている安心感がある。	・利用者が発言しやすく、安心感のある居場所作りを今後も心掛けていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22				・「楽しそうに行って、元気に帰ってくる」と保育園職員から伝えがある。 ・毎回楽しみにしている。 ・帰ってくると「今日は～した！」と教えてくれる。	・利用者の楽しんでいる様子が、保護者様に伝わるような発信・対応を継続させていただきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	3		1	・言葉が出るようになりとてもありがたい。	・それぞれのこどもの特性にあった対応や接し方を考え、今後も支援させていただきます。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	にじっこらんど

公表日　2026年　2月　28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用者と1対1の配置を行っている。	契約時に在籍するスタッフ、資格の有無についてを伝える。今後、ホームページにて在籍職員を紹介することを検討する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内に段差は無い作りになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		広々とした空間である。利用者が退所後には必ず清掃を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	○		個別活動はパーテーションの設置された場所で実施。遊びの内容に応じ、ロールカーテンで仕切りを行う。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		会議を通じて議題に上げ、職員と共通理解を図る。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に一度、評価アンケートを実施し、取りまとめたものを職員間で共有して改善策に徹する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		全職員間で行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は現在実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内や外部研修を通じ勉強会や研修を実施している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを作成後は児童の個人ファイルに保存し、すぐに閲覧できるようにし、職員で情報共有している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		多くの職員の意見を交え作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者の月齢や特性に応じて集団や個別活動に参加や取り組みを想定して作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝のミーティング内で確認している。午後勤務者には個別で伝達を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後もしくは翌朝に情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用日ごとに全ての利用者の支援内容を記録をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングは６ヶ月に一度行い、結果に応じて支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要がある場合に、各関係機関と連絡が取れる様にしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関と電話等で連絡を取りながら連携を行っている。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	○		年に1~2度センターからの聞き取り調査の際に他事業所の良い事例等のアドバイスを受けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		イベント等交流の機会があれば参加を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動の内容を送迎時に伝えたり、連絡帳やLINEで詳細を記載した活動写真を送信している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書に沿い、説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	○		作成前に保護者から支援の意向等を確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時に個別支援計画の説明を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		電話やline、または面談にて対応を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		機会があれば、保護者会などの場を設けることを検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがある場合には、事業所内で共有し、迅速かつ適切に対応するように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページ内のブログ公開やlineを活用し、案内そしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報の取扱いについて説明すると共に、契約後は個人情報の取り扱いに十分注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		面談や契約時には保護者と情報共有を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民も参加可能のにじのいろフェスタ（お祭り）を行っていたが今後は未定。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し、すぐに閲覧できるよう事業所内に掲示している。地震や火災等を想定した避難訓練を定期的に行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事前にアレルギー調査を行っている。医師の指示書が必要な対象者は不在だが随時確認していく。	アレルギー表にまとめ掲示し、療育の中で誤り提供や接触の無いよう十分留意する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		利用者の特性等について保護者と話し合い、安全確保を出来る様に取り組み改善している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例が起こった際は、記録に残し職員で共有して改善を行う。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		児童虐待防止研修と身体拘束の社内研修を実施し、社外研修を通じ勉強会の場を設ける。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		事業所ではやむを得ない場合を除き、身体拘束する行為は行っていないことを保護者に伝えている。	契約時に保護者様に伝えていく。